

丸ノ内通信

小河内貯水池愈々着工

東京市が『帝都水の護り』としてかねて内務省に認可申請中の小河内貯水池新設その他水道擴張並同事業及び其の執行年度割は五月二日内閣の認可を得て四日内務省告示を以て發令した同事業の概要左の如し。

小河内貯水池 西多摩郡小河内村地内に於て多摩川を横断して堰堤を築き同村及山梨縣北都留郡丹波山、小菅の兩村に亘り貯水池を設けて同川の水量豊富なる時之を貯溜し渴水の時より補給するものとす、貯水池は満水有効容積約184,000,000平方米にして堰堤は長さ329米、頂幅8米、高池底以上146米、根堀敷以上149米とし堰堤より約120米西北方の地點に餘水吐隧道を設く。

東村山淨水場 北多摩郡東村山に淨水場を設け既設村山、山口兩貯水池、村山境線導水渠の一部及山口線導水渠を経て来る原水を濾池に引入れ濾過し一旦淨水池に貯へ配水本管に導くものとす。

配水本管 東村山淨水場より内徑2,400粍の鐵管一條を北多摩郡東村山、久留米、小平、田無、保谷の各町村及板橋、杉並、中野、淀橋の各區を経て豊島區に導き内徑2,000粍及1,800粍の三條に分歧せしめ前者は牛込區を経て大徑を800粍迄に漸減し、既設配水管に連絡して小石川、本郷、下谷、淺草各區の全部及神田區の一部に配水し、後者は四谷區に入り内徑を1,200粍に減じ既設配水管に連絡して四谷、牛込兩區の全部及麹町、赤坂、淀橋、濫谷各區の一部に配水す、淀橋淨水場より新に内徑1,200粍の鐵管一條を日本橋區及京橋區に導きその内徑を800粍迄に漸減し既設配水管に連絡せしめて本所、深川兩區の一部に配水す。

配水小管 給水區域内にして鐵管未設に屬する芝、深川兩區地先埋立地内に於て内徑350粍以下鐵管延長約83,300米を敷設するものとす。

導水渠豫備線 北多摩郡砂川村地内玉川上水路より同郡大和村を経て東村山淨水場に至る間に延長約3930米の導水渠を設く、その送水量秒時12,061立方メートルとす。

本事業の執行年度割 △一一年約一割一分八厘△一二年約一割二分四厘△一三年同上△一四年同上△一五年同上△一六年約一割四厘△一七年約九分三厘△一八年約八分二厘△一九年同上△二〇年約二分五厘

松村務氏逝去

札幌鐵道局長男爵松村務氏は病氣の爲五月上旬歸京淀橋區上落合の自宅に於て療養中のところ17日遂に逝去された、享年53。

松村局長は圓滿なる人格者で改良工事に關する多大の功勞者として知られた人、今その訃に接し洵に哀情に堪へない。氏は明治十七年三月二日松村中將の次男として東京に生れ同四十三年七月東大工學部土木工學科卒業、同四十年十月襲等、男爵、同四十三年七月鐵部院雇工務課勤務、同四十四年十二月鐵道院技手、大正三年十月鐵道院技師、技術部勤務、同四年六月工務局勤務、同七年三月中管工務課勤務、同八年五月東京改事勤務、同十一年五月第一改事勤務、同十四年十一月工務局改良課勤務、昭和二年八月歐米各國出張、同三年十月歸朝、東鐵改良課長、同六年七月保線課長兼務、次で職名改正により工務課長に轉じ、昭和十年五月札鐵局長に榮轉今日に至つた。

森田氏電氣局長に

五月九日不慮の凶刃に殞れた古川鐵道省電氣局長の後任は古川局長の初七日を過ぎた去る五月十六日決定電氣局電化課長たりし森田重彦氏が昇任した。

田淵技師の奇禍

内務省大阪土木出張所内務技師田淵壽郎氏は去五月十八日午後三時四十分頃、大軌久米寺線八木驛南方50メートルの陸橋で、國道15號線の測量中、架設せる足場が破損して足を踏み外し高50メートルの道路上に墜落、左大腿部を骨折、全治2ヶ月の重傷を負はれた。日下大阪帝大病院に入院治療中であるが、經過は頗る良好の由である。